

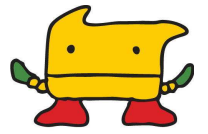
# 嬉 望

第 2 号

平成25年 5月 8日

兵庫教育大学  
教職大学院  
学校経営コース  
大学院生編集部

「嬉望」は、本学加東キャンパスが嬉野台地区にあることと、「希望」とをかけた造語です。



ひょうちゃん

大学マスコット

## 大学幹部インタビュー

第1回…加治佐哲也 学長

本学の幹部に、教職大学院のあり方や、学校経営コースに対する考えなどをお伺いしましたので、今回から順次掲載していきます。

第1回は、加治佐哲也学長です。

加治佐学長プロフィール  
89年に本学学校教育学部助教授として着任、97年学校教育学部教授、05年大学院学校教育研究科教授、10年より学長。

研究分野は学校経営および教育行政。日本教職大学院協会長、中央教育審議会委員、教員の資質能力向上に係る当面の改善方策の実施に向けた協力者会議委員等、多くの役員、委員を務められています。

・教員養成のあり方は、今後どうなっていくのでしょうか。

昨年8月に、中教審が答申

（「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」）を出しましたが、教員の資質能力の向上と、教員養成の高度化は、必然的、国際的な流れです。今後は、社会の急激な変化に対応した、21世紀を生き抜く力を育成する「新たな学び」が求められています。さらに、いじめ問題など生徒指導上の対応、地域社会との連携など、教育をめぐる問題は高度化、複雑化しています。また、特別支援教育の観点など、児童生徒の特性に応じた教育を行うことが一層求められることも間違いありません。

こうした課題に対応できる教員の育成と、将来にわたつ

て学び続ける教員像の確立が問われています。22歳で教員になったとして、それで一人前の教師として本当にやっていけるのでしょうか。

学校現場で教員の能力を育成していくことは重要なことです。しかし、学校規模が縮小し、現場は多忙化の中で、それにかけられる労力には限界があります。教員の養成、採用、研修という3点のうち、教員養成と研修の2点について、大学と教育委員会とが一体となって進めていくことが重要なのです。

また、採用についても、大学院で学んだ学生に対し、1次試験の免除など、優遇措置を実施している教育委員会があります。その数はまだ多くはありませんが、この動きがもつと広がっていくけば、教育の諸課題の解決にもきつと役立つはず。少子化の時代、社会全体としてもこのコストは引き合うものだと考えています。

・学校経営コースについて、考えをお聞かせください

先の中教審答申にも、今後、マネジメント力に長けた管理職を登用するため、教職大学院等による管理職、教育行政職の育成システムの構築の推進が謳われています。

本学の学校経営コースは、他の教職大学院の類似コースよりも、派遣される教員の将来の管理職への進路が明確で、現職の教頭や主幹教諭が多く含まれていることが特徴です。

これらの優れた教員を2年間派遣していただくということは、学校経営コースが、単なる管理職候補者ではなく、管理職や教育行政職をリードする高度な人材を育成すること

と、そのためのプログラムが用意されていることが理解されているのだと考えています。

各都道府県教育委員会には、このような学校経営コースの特性を理解していただいた上で、戦略的な派遣をさらに進めていただきたいと思います。

・学校経営コースの院生や、修了生に対してひとこと

本コースの院生や修了生は、ここでの学びを生かして、それぞれの地元で、学校管理職や教育行政職のリーダーとして貢献してほしいと思います。



### <学校経営コースのミッション>

- (1) 高度な専門性を提供することで、学校経営や教育行政の刷新の支援と、充実した教職キャリアの実現に寄与する。
- (2) 「理論と実践の融合」を図り、戦略的突出を図ることで、兵教大活性化に寄与する。
- (3) 全国で唯一、学校経営に特化した本コースは、あらゆる場面での学びを充実させることで、全国の教職大学院のモデル日本の教育の充実に貢献する。

## 「学校経営・教育行政実践課題研究」はじまる

「学校経営(教育行政)」を構成する要素と成功要因とは、

1年生の今年度の授業も本格的に始まり、現場にいた昨年度とは異なる、新たな環境での学びに意欲を燃やしています。

学校経営コースでは、教員とコース生全員が参加する授業として、「学校経営・教育行政実践課題研究」があり、課題研究、質疑、問題提起などが活発に行われています。

ここで1年生が受ける「洗礼」は、2年生が昨年度作成した「学校経営・教育行政事例研究」を題材として分析し、学校経営・教育行政を構成する要素と成功要因を理解し、全員の前で発表することです。



順番の早い院生は、授業が始まって2週間で発表を迎えることになり、毎日事例研究を読み込み、執筆した2年生へ質問に行き、資料をまとめることになります。頭の中を「マネジメント」「PDCA」「学校評価」「学校教育目標」「地方分権」「コミュニティ・スクール」「カリキュラム」といったキーワードが飛び回ります。

2年生に対しては、1年間の学びを経てから事例研究を見ることで、学校経営・教育行政の成功要因や課題をさらに深く考察することができるようになることが期待されています。また、1年生に対する支援的な助言も重要な役割です。

発表の後は、教員からの質問や課題の指摘があります。まったく予想していなかった観点からの指摘も多く、緊張のひとときです。それだけに、終わった後の解放感は大いなものがあります。

しかし休む間もなく、次の課題が1年生を待ち受けています。これについては、また後日ご報告します。

教職大学院 学びの紹介

## 自主研修 (フィールドワーク)

私たちは、大学院での授業だけではなく、各自自治体で行われる研修にも、主催者のご理解のもと自主的に参加しています。単に研修を一緒に受けるだけではなく、ときには研修のお手伝いをさせていただくことで、研修を実施する立場になったときに役立つ経験となっています。

### ●赤穂市立塩屋小学校の第三者評価報告書案を提出 (4月11日)

去る2月27日に、現在の2年生10名と浅野教授、大野准教授で実施した赤穂市立塩屋小学校の第三者評価報告書案が完成し、4月11日に赤穂市教育委員会の平井次長に提出しました。

赤穂市では、昨年7月に発生した中学生のいじめ事件に



関連し、第三者委員会を立ち上げて、再発防止に向けた取り組みを行っています。今回の学校の第三者評価もその一環で、報告書案の事実確認のチェックを経て、4月26日に塩屋小学校ホームページで公表されました。また、7月上旬には、同じ赤穂市の中学校に、学生12名、教員3名で第三者評価を実施する予定です。

### ●校内での教員育成(OJT)のキックオフ会議に参加しました (神戸市 4月16日)

2年生7名は、4月16日(火)の午後、神戸市総合教育センターで開催された「OJTキックオフ会議」に参加しました。これは、神戸市教育委員会が教員育成の一環として実施する「OJT推進事

業」の説明会で、受講者は、神戸市内の全小中学校の管理職と育成担当者です。会議では、冒頭、新規採用者が急増し、世代交代している学校の現状の説明があり、昨年度のモデル校でのOJTの取り組みの紹介と、本年度の進め方が示されました。

その後、浅野教授の基調講演がありました。神戸市教育委員会あげての若手育成の工夫や、学校での先進的な実践事例に触れ、現任校のみならず、教育委員会の支援のあり方についても大いに参考になりました。参加を快く承諾いただいた神戸市総合教育センターの皆さまにお礼申し上げます。

